

国の改正「食料・農業・農村基本法」の基本的施策や県条例の改正内容をふまえ、条例に基づく基本計画においても、「**農畜産物における食料自給力の強化**」、「**人口減少下における農業労働力の維持**」、「**環境と調和した農業の実現**」の施策横断的に進める3つの取組と、危機管理体制として「**家畜防疫体制の強化・徹底**」の取組を設定し、特に注力して進めます。

### 注力する取組① 農畜産物における食料自給力の強化

それぞれの品目や産地において、**スマート農業技術の導入**による生産性向上、**気候変動に対応**する生産対策の推進、**飼料や肥料等の自給体制の強化**など、**農畜産物の生産の維持・拡大**に向けて必要な取組を展開します。

また、魅力ある**県産農畜産物の県民をはじめとする消費者への供給**の促進につながる取組を展開します。

#### 関連する基本施策

取組方向	(1) それぞれの品目における生産の維持・拡大 ※米、小麦、大豆の3品目および野菜3、果樹1、茶1の5品目で目標値を設定 ・ 水稻における多収品種の導入、輸出用米の拡大 ・ 野菜等における加工・業務用需要等への対応 など	I
	(2) スマート農業技術の導入をはじめとする生産性の向上 ・ ICT等の活用によるスマート農業技術の導入 ・ スマート技術の導入に対応した新たな基盤整備の展開 など	I, II, III
	(3) 気候変動への対応や農業資材の自給体制強化による持続性向上 ・ 気候変動への適応のための品種や技術の開発 ・ 原料を海外に依存する飼料や肥料の自給体制の強化 など	I, II
	(4) 地産地消をはじめ、魅力ある県産農畜産物の県民等への供給の促進 ・ 多様な世代に向けた地産地消や食育のさらなる推進 など	I, IV

### 注力する取組③ 環境と調和した農業の実現

それぞれの地域や産地において、**環境保全型農業技術の導入**や**有機農業**といった農業の自然循環機能が維持増進される農業生産活動の推進、**耕畜連携等の地域資源の活用を拡大**する取組の推進など農業における環境負荷を低減する取組や、農業・農村が持つ**県土保全や水源かん養など多面的な機能の維持・発揮**につながる取組を展開します。

#### 関連する基本施策

取組方向	(1) 環境への負荷低減に資する栽培体系への転換の推進 ・ 「環境保全型農業直接支払交付金」を活用した環境負荷の低減につながる生産活動の促進 など	IV
	(2) 農業生産資材における地域資源の活用促進 ・ 耕種農家の生産した国産飼料を畜産農家が利用し、家畜に由来する堆肥を農地に還元する取組の促進 など	I, II, III
	(3) 農業・農村が有する多面的機能の維持・発揮 ・ 「多面的機能支払交付金」を活用した地域資源の保全や良好な景観形成等を支える地域の共同活動の促進 など	III

### 注力する取組② 人口減少下における農業労働力の維持

それぞれの地域や産地において、農福連携、女性、若者、外国人等の、**農業・農村を支える多様な人材を確保**する取組を展開します。

また、必要となる**担い手を確保し、育成していく**ための取組を展開します。

#### 関連する基本施策

取組方向	(1) 産地や農業経営体における多様な人材による労働力の確保 ・ 新規就農者の就農から経営発展の各段階におけるきめ細かなサポート ・ 障がい者、女性、若者、高齢者、外国人等の多様な人材の確保に向けた取組 など	II
	(2) 地域計画の作成を通じた話し合いの促進による担い手の確保・育成 ・ 集落営農の組織化・法人化、既存の集落営農の広域化や近隣の担い手農業者との連携、企業の農業参入の促進 など	II
	(3) 小規模な兼業農家や高齢農家をはじめ多様な農業者の参画・連携による地域農業・集落機能の維持発展 ・ 小規模な兼業農家や高齢農家等の多様な農業者が参画する地域営農体制の構築 など	II, III

### (危機管理体制) 家畜防疫対策の強化・徹底

**高病原性鳥インフルエンザ**や**豚熱**、さらには隣国で発生し侵入の危険が高まっている**アフリカ豚熱**など、**家畜伝染病の発生を未然に防ぐ**とともに、万一発生した場合には、的確に対応するため、関係者が一致団結した危機管理体制を構築します。

#### 取組方向

- |      |  |
|------|--|
| 取組方向 | (1) 家畜伝染病の農場・畜舎への侵入防止対策の強化・徹底<br>・ 人、物、車両による農場へのウイルスの持ち込み防止対策の強化・徹底<br>・ 野生動物の侵入防止対策の強化・徹底   |
|      | (2) 野鳥や野生イノシシ対策など家畜伝染病のまん延防止対策の強化<br>・ 鳥インフルエンザの発生防止に向けて野鳥のウイルス感染の有無などのモニタリング<br>・ 豚熱の経口ワクチン散布の継続実施、野生イノシシの感染状況のモニタリングおよび捕獲強化による個体数の低減 |